

テーマ 『不登校支援について語る ～行政と私たちにできること～』

主催団体 チーム'95

開催日時・会場

- ✚ 平成 24 年 8 月 29 日（水）18 時 30 分～20 時 30 分
- ✚ 長野県短期大学 六鈴会館

参加者

- ✚ 意見交換参加者 約 30 名
（知事・主催団体の会員学生及びOB・OGの方）



主催団体「チーム'95」について

- ✚ 県内の学生スタッフによるボランティア団体。
- ✚ 主な活動として、毎年夏期の「ふれあい自然体験キャンプ」という小学4年生から中学3年生を対象とした不登校支援キャンプについて、県文化財・生涯学習課からの委託を受け、企画・運営を行っている。また、現役の学生に加えて、OB・OGも活動を支えている。
- ✚ キャンプに向けたスキルアップ研修等に取り組みながら、ほかにも様々なキャンプ活動を行っている。

参加者の主なご意見・意見交換の様子

参加者には、子どものころ自身が「ふれあい自然体験キャンプ」に参加して救われたので、今度は学生スタッフとして関わりたいという方もいらっしゃいました。不登校になってしまう子どもには、家庭や地域の中でコミュニケーションを経験する場がない、先生の不登校児に対する理解が足りないなど、自身の不登校体験やスタッフとして不登校の児童・生徒に係わった経験を踏まえて意見・感想などを知事に伝えました。



知事は、「自分も高校に行くのが嫌になり高校を変えたことがある。親から『学校に行かなくてもいいんだよ。』と言われて退学したときは、晴々とした気分になった記憶がある。」などと自身の経験を語り、学校については「ふれあい自然体験活動（キャンプ）は、不登校児に『場』を提供するという重要な役割を果たしていると思うが、キャンプのような非日常だけでなく、日常の部分で、同様の『場』の提供ができるようにしていければと思っている。現在の学校は、学校から子どもへという一方通行になっている。そうではなく、学校を多様化していきたい。学校の先生だけでは限界があるので、地域の人や皆さんのような団体に学校を支援してもらえるような仕組みを作っていきたい。多様化のため、例えば特別支援教育などに力を入れて取り組んでくれる私学の誘致なども考えている。子どもが学校を選ぶような仕組みになればよいと思う。」などと話していました。